6/4 赤旗

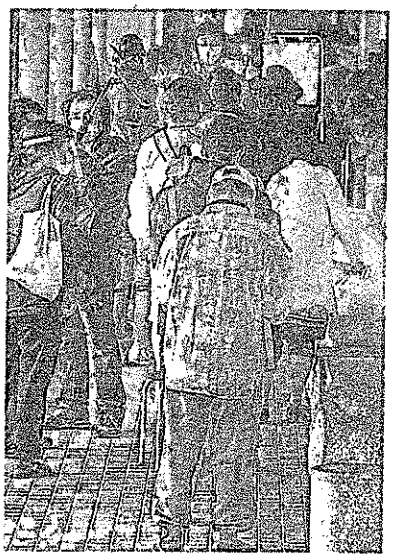
生活困窮者 支援求め

「大人食堂」に長蛇の列

東京

貯金取り崩す■路上生活を経験■難民認定を

大型連休で公的支援の窓口が閉鎖されるなか、急増している生活困窮者を支援しようと3日、「ゴールデンウイーク大人食堂」を聖イグナチオ教会（東京都千代田区）で生活困窮者支援団体が開きました。新型コロナウイルスで3度目の緊急事態宣言が出されたもと、生活が苦しくなっている若者や女性、外国人らが支援を求めて並びました。同食堂は5日（正午～午後6時）にも開催予定です。



支援を求めて列に並ぶ人ら＝3日、東京都千代田区

初日には、約250食分の食料が用意され、生活・医療相談も行われました。

昨年7月に派遣切りにあい失業中の50代女性は、「これまでIT関係の仕事をしてきたが、コロナの影響を受けて契約更新がされなかった。母と2人暮らしで、母の年金と私の貯金を取り崩して生活している。食費や光熱費を切り詰めている」と話します。生活保護利用について女性は「いまの状態が半年や1年続けば考える」と語りました。

昨年7月の失業後、今年2月に路上生活を経験した男性（35）は、「3月に支援団体につながり、今は生活保護を受けてアパートで暮らしている。国は自粛しか言わず、具体策がない。一律10万円の再支給をしてほしい」と語りました。

イラン出身で難民申請中だという30代～50代の男性4人の姿も。いずれも入管施設から仮放免中で、半年～3年の長期収容を経験したといいます。支援者に支えられながら生活しており、「仮放免中は仕事もできず医療保険もない。難民認定をしてほしい。せめて、普通に暮らせる権利を保障してほしい」と訴えました。

支援した「つくろい東京ファンド」代表理事の稲葉剛さんは、長期化するコロナ禍に政府が対応できていないと批判。「生活困窮者は今年になりさらに増えている。生活保護を使いやすくして、住まい確保の支援策の強化も必要だ」と語りました。

日本共産党の山添拓参院議員と谷川智行衆院東京比例候補（4区重複）、立憲民主党、社民党の国会議員が参加しました。